

図書館だより

BUNKA GAKUEN LIBRARY

文化学園大学・文化ファッション大学院大学・文化服装学院・文化外国語専門学校
東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL.03-3299-2395 FAX.03-3299-2604

No.167

文化学園図書館

2018年10月25日発行

図書館と文化祭



今年も文化学園の最大のイベント、文化祭の季節を迎えました。

展示とは、「物品、特に作品や研究資料などを並べて多くの人が見られるようにすること」です(『明鏡国語辞典』)。展示といえば美術館や博物館ですが、図書館でも展示を行っています。昨年は「文化学園カレンダールのあゆみ65年」を行い、好評でした。図書館が展示をする目的は、展示資料を見た人に何らかの気づきや刺激を与えることにより、図書館資料の利用を促すことにあります。

文化学園は、ファッション分野を中心とする教育・研究活動を行っています。この活動を支えるために文化学園図書館があり、数多くの資料を集めてきました。これらの資料の中で貴重資料は稀覯本室に保存され、その他の資料は分類により排架しています。貴重資料は一定の手続きを経て利用頂くので、目に留まる機会が限られます。これを補うため、貴重書デジタルアーカイブでも公開しています。その他の資料は棚上で分類されますので、資料が1ヶ所にまとまらない場合があります。この点を解消するため、テーマを決めた様々な展示を行います。今年も、「髪型の移り変わり～西洋と日本～」をテーマに開き、貴重書も展示します。ぜひ、実物をご覧ください。

文化学園図書館長 瀬島 健二郎



文化祭特別展示 スタート

図書館開館50周年記念事業として、文化祭期間に行った展示からはじまる。

当初は、日ごろ閲覧できない服飾に関する貴重書の一般公開を目的としていた。

回を重ね、現代のファッションやアートにまで広がりを見せている。

《2000年》

西洋服飾とその周辺
—ルネサンスからアール・デコ—



ホルツィウスとヘイン共著
『ルドルフ2世の将校と軍人』(1587)

《2001年》

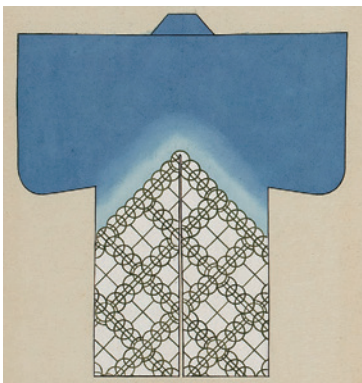
文化学園図書館所蔵文献展
民族服をたずねて



クレッチマー
『ドイツの民族衣装』(1887-1890)

《2012年》

きものづくし
～和古書から見るきもの世界～



『衣装図録：紀州徳川家旧蔵』(江戸後期)

《2011年》

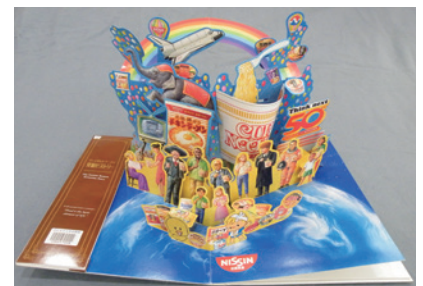
かわいい! きれい! レア! な本
～デジタルアーカイブでGO!～



ジョルジュ・バルビエ
『月々の房飾り』(1916?-1920?)
リボン

《2010年》

大っきい! 小っちゃい! 変わった本



日清食品株式会社社史編纂プロジェクト編
『日清食品50年史 1958-2008』
第3分冊 (2008)

《2013年》

ヴィジョネア展
～Limited Edition,
Unlimited Imagination～



『VISIONAIRE』 No.4 Heaven (1991)

《2014年》

VOGUE5
～時代と共に駆け抜けて～



『VOGUE NIPPON』 創刊号 1999年9月号

《2015年》

アール・デコ期の挿絵画家
—バルビエを中心に—



ジョルジュ・バルビエ
『月々の房飾り』(1916?-1920?)
私よ…



1年休み

《2003年》

文化学園創立80周年記念
文化出版局 雑誌創刊号コレクション



『装苑』創刊号 1936年4月5日

1年休み

《2005年》

Fashion plates from Bunka Women's
University Library Collection
文化女子大学図書館蔵書に
みる西洋服飾版画



ジョルジュ・ルバープ
『ポール・ボワレの作品』(1911)



2年休み



《2009年》

VISIONAIRE展
ーヴィジョネアー



『VISIONAIRE』 No.56 Solar (2009)

《2008年》

錦絵に見る明治時代の風俗と
ファッション



楊洲周延
『東風俗福づくし 大礼ふく』(1889)

《2016年》

メンズ古今東西



『王侯貴族の優雅な服飾図集』(1781)

《2017年》

文化学園カレンダーのあゆみ
65年



文化学園カレンダー 2017年1・2月



2018年

髪型の移り変わり
～西洋と日本～

2018年度文化祭展示のお知らせ

髪型の移り変わり ～西洋と日本～

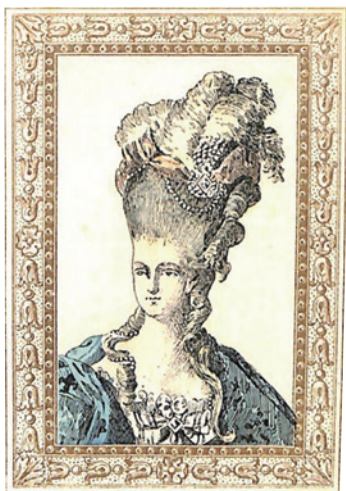
11月2日(金)、3日(土・祝)、4日(日)

9:30～17:00(4日のみ16:00まで)

普段はお見せしていない西洋の貴重書、日本の和綴じ本や錦絵、新旧の雑誌など、古いものから最近のものまで髪型の歴史を図版中心に展示いたします。

次ページでは、文化学園大学非常勤講師の津田紀代先生に髪型の歴史について概説を執筆していただきました。これまでの流れを理解したうえで展示をご覧いただくと、より楽しんでいただけたらと思います。ぜひお読みください。

展示資料の一部をご紹介



Octave Uzanne
Coiffures de style : la parure excentrique, époque Louis XVI
『髪型ールイ16世時代の奇抜なよそおい』



フリゲート艦ユノ



Gallerie des modes et costumes français : dessinés d' après nature : gravés par les plus célèbres artistes en ce genre, et colorés avec le plus grand soin par Madame Le Beau
『ギャラリー・デ・モード・エ・コスチューム・フランセ;1778年から1787年までの写生によるフランス・モードと服装の図集』



安部玉腕子画
当世かもし雛形(『風俗圖繪』第11輯)



吟光画
大日本婦人束髪図解

東西のヘアカルチャー

津田 紀代 文化学園大学 非常勤講師

古今東西、人はさまざまなヘアスタイルを創造してきた。かつて古代社会では、身体保護のためにヘアスタイルは存在すると同時に、権威、帰属など社会的なしるし、普遍的といえる美の追求という役割を備えていた。現代社会では、権威、帰属表現の役割がほとんどなくなったため、ヘアスタイルは、美の追求、個人のアイデンティティを表すものとしての役割が中心となっている。

オリエント・西洋のヘアカルチャー

古代エジプトでは、乾燥、高温から身体を守るためにかつらをつけ、王侯貴族は、冠や装飾などによって、さらに権威を示した。また、古代ギリシアでは、ゆるやかにカールした自然なスタイルを保持し、狭い額の美のために、ヘアスタイルを工夫した。

歴史上最も奇抜といわれる18世紀後半の巨大ヘアは、フランスの皇太子妃、マリー＝アントワネットが宮廷に持ち込み、ヨーロッパに一大ブームが起きた。そのひとつ「フリゲート艦ユノ」（参照P.4）は、アメリカの独立に絡んだ英仏間の戦いで、勝利したフランスの戦艦名である。頭に帆船を乗せたその大胆さには驚く。ほかに、戦場、庭園、オペラや神話の主人公、文学表現など、あらゆる所からヒントを得ていた。斬新なスタイルの誕生には、クリエイターの力が大きかった。マリー＝アントワネットお抱えヘアドレッサーのレオナルド・オーティエ、王妃のモード大臣、マルシャン・デ・モードのローズ・ベルタンは、時代の風を敏感に捉え、意表をつくスタイルを考案した。

流行のスタイルは、『ギャラリー・デ・モード・エ・コスチューム・フランセ』（参照P.4）に140種以上記録されている。本誌は、ファッション誌の先駆的役割を担った文献として知られている。

巨大ヘアは、100年後にも語り継がれた。社会風俗史研究家のオクタヴ・ユザーヌは、『髪型—ルイ16世時代の奇抜なよそおい』（P.4参照）で、前述の文献の内容を、コワフェール、ボンネット、シャポー、シニヨンに整理し、100種解説している。なお、冒頭でファッションの重要性を力説している点は見逃せない。「我々の美意識や文明と隣り合わせにあるモード…これほど興味深く、非常に哲学的で、広い知識をもたらす歴史は他にないだろう。女性のモードは、美の歴史を探る上で、最も貴重な手がかりとなる。…モードは、社会生活の変化を最も忠実に反映するものである。」

19世紀には、これほどの巨大ヘアは登場しなかった。世紀末から20世紀初めにかけて、女性のライフスタイルとファッションの急激な変化、ヘア技術の進展—コテによるウェーブヘア、電気によるパーマネントウェーブ、断髪、薬液によるコールドパーマネントウェーブなどにより、より活動しやすいスタイルが次々に提案されていった。

日本のヘアカルチャー

日本においては、平安時代以降世界的に稀有な垂髪が約700年続いた。江戸時代には、髪結い床、女髪結いの活躍と、百種以上の日本髪が誕生した。いずれも権威や身分表示の役割を担い、美的表現としても工夫された。

欧米との交流が進むなかで、明治時代には、「婦人束髪会」が、日本髪の不経済、不衛生、不便をあげて、西欧風の束髪推進運動を起こした。さらに、大正、昭和時代には、黒髪直毛文化に衝撃が走った。西洋のウェーブヘア、断髪、電気によるパーマネントウェーブ、コールドパーマネントウェーブの到来など、ダイナミックな変化を遂げた。そして、20世紀末には、茶髪という流行語が生まれるほどに髪の色多色化が進んだ。

現代のヘアカルチャーは、髪色、テクスチュア（質感）を男女の境界を越えて、自由に選択する方向へ向っている。これからも、選択の幅は広がっていくであろう。自己の表現、美の追求、ノンバーバルコミュニケーションツールとして、ヘアスタイルの重要性は、今後も高まっていくであろう。

津田紀代

文化学園大学 服装学部
非常勤講師

立教大学文学部卒。元ポーラ文化研究所主任学芸員、比較文化として東西の化粧文化史の調査研究。

【研究テーマ】

化粧文化論、東西化粧文化史

【研究内容】

人と化粧、髪、香り、装身具を含めた装身文化の関わりについて研究と関連展示の企画、出版。主な著書：『ヘアモードの時代』『扇物語』『幕末・明治 美人帖』『あそぶかたち 20世紀の香水瓶』ほか



ソファデザインコンテスト



文化学園大学造形学部建築・インテリア学科の学生を対象に「ソファデザインコンテスト」を開催しました。

2017年4月に開始した第1次審査では、105点もの応募がありました。16名が審査を通過し、第2次審査を経て、最優秀賞、イトーキ・キルト工芸賞、図書館賞および入賞者が決定しました。

(株)イトーキ、(株)キルト工芸のご協力のもと、生地製作・張り替えを行い、2018年4月に館内のすべてのソファが新しくなりました。

2017年6月

第1次審査



第1次審査通過者は、イトーキ東京イノベーションセンターSYNQAを見学しました

2017年10月

第2次審査



素敵な作品ばかりで、審査員は悩んでいました

授賞式



【最優秀賞】 コウ・ゲハンさん
【イトーキ・キルト工芸賞】 新谷真央さん 山口みなみさん
【図書館賞】 櫻井咲良さん 川口藍さん

2017年11月

業者との打ち合わせ

2018年2月

ソファ製作



実際の生地を使って貼り合わせを確認しました

2018年4月

ソファ完成



切り出された生地
1枚1枚丁寧に縫い合わせて
くださいました



最優秀賞のデザインは、和服の衿から連想したもの

不明な点は下記にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください

TEL:03-3299-2395 [URL] <https://lib.bunka.ac.jp>

twitterとfacebookにて図書館の情報を発信しています

[twitter] <https://twitter.com/bunkalib>

[facebook] <https://www.facebook.com/lib.bunka>